1. 2つの屋根を見る（左：メイン競技場、右：武道場）
2. メイン競技場の屋根架構は、県産の製材のみでつくられている。
3. 1階エントランスホール「交流の土間」の内装には、別府の竹細工などの県産品が使われている。

日建連表彰2021
第62回BCS賞

昭和電工（大分県立）武道スポーツセンター

選定理由

【選考委員】
後藤春彦・安田俊也・徳久光彦

大分市郊外の自然豊かな丘陵地に整備されたスポーツ公園に立地し、市のアリーナ構想とも連携した屋内競技・広域防災拠点施設であり、県民念願の武道場（六面・四〇〇席）と多目的競技場（四、〇〇〇席）を備えている。

外観上特徴的な流線型の二つの大屋根は、隣接する既存ドームと同様に南からの卓越風を捉える南北軸に平行の配置で、ドームとのボリューム・コントロールや弧の向き、緑溢れる周辺環境との関係性など「対比と調和」を図る構成と言える。

施設の特色の一つは、全国第三位のスギ丸太生産量を誇る県の木材産業振興の一環として、屋根架構に県産の一般製材（一二〇×二四〇×四、〇〇〇㍉）のみを使用していることである。

プロポーザル時は鉄骨立体トラス造屋根であった多目的競技場において、武道場（スパン三〇㍍）と同様に木造化を推進、製材架構による日本最大級（スパン七〇㍍）の大空間を実現するとともに、県が大量の木材調達・発注・品質管理（材強度・含水率）を担って供給するという、リスクを伴う役割を果したことは特筆される。

プロジェクトで考案されたアーチ状平面トラスの架構システムは非常に合理的で、細く・短い直材を繋ぐ接合部の精緻なディテールと技術の徹底追求が、シンプルながら律動的で力強く、集成材とは趣の異なる空間性を創出している。

竣工後も二年間、撓（たわ）み検証を行った木トラスの構成材はカット面角度が統一（中心角七四度円弧の二四等分仕口）され、BIMモデルの統合・共有による複数工場での分散加工を可能にするなど、製材加工・工法の新たな方向性を示している。特に下弦材（H形組、二方向の座屈拘束）アーチは出色で、木口を面タッチ接合させて金属部材を極力見せないなど、意匠と表裏一体の構造デザインの冴えと高精度の施工・技術力が観取できる。

このような内観とともに「日本刀の反りと切っ先」を意識したという外観のシャープなフォルムが一体となり、武道精神にも繋がる静・動併せ持つ良質な空間デザインが印象深い。

もう一つの特色は優れた環境設計の側面である。強い卓越風に沿う南北軸の妻面＋屋根開口による自然採光・通風システムや競技場壁面からの微風速置換空調、座席下吹出方式など効率的な大空間空調システム（BEI実績値：屋内競技施設基準値×〇・六二）に加えて、隣接ドームとの電力融通など、豊かな自然の丘上で「風・緑・光＋省エネ」を体感する「エコ・アリーナ」の魅力を発信している。

更に一階エントランスホール「交流の土間」における地産材（スギ・竹・七島藺・漆喰）の伝統・現代工芸による内装や家具の設えも印象的で、切磋琢磨された技の「晴れ舞台」が官民共創に拠って見事に調えられている。

昭和電工（大分県立）
武道スポーツセンター　概要

- 所在地　大分県大分市大字横尾 大分スポーツ公園内
- 建築主　大分県
- 設計者　㈱石本建築事務所、㈱山田憲明構造設計事務所
- 施工者　㈱フジタ、㈱末宗組
- 竣工日　2019年4月17日

- 敷地面積　1,243,400㎡
- 建築面積　14,552㎡
- 延床面積　16,126㎡

- 階数　地上3階、地下1階
- 構造　鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・木造

詳細や他の写真などは左記のQRコードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場／大宮区役所・大宮図書館／軽井沢風越学園／The Okura Tokyo/大倉集古館／渋谷ストリーム／昭和電工（大分県立）武道スポーツセンター／大丸心斎橋店本館／高崎芸術劇場／知立の寺子屋／日本橋室町三井タワー/日本橋スマートエネルギープロジェクト／東大阪市文化創造館／福田美術館／松原市民松原図書館 「読書の森」／ミュージアムタワー京橋／ミライon（長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館）

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。